

徳性・規範意識の芽生えの項目では、まず指針にある解説線で発信されていました。園長の石田先生にお話を伺うと、都内近郊の保育園等、20園ほどが集まり行っている勉強会『臥竜塾年間講座』で、10の姿を毎月一項目ずつ学んでいるそうで、例えば、「道徳性・規範意識の芽生え」の

東京都にある三茶こだま保育園様に伺いました。階段の壁面に子ども達の写真が貼ってあり、卒園までに育てたい10の姿(以下、10の姿)のエピソードが一項目ずつ貼り出されていました。



保育室に繋がる階段

また展示物には10の姿の項目にプラスして、子どもたち同士のエピソードも書かれており、子どもたちの10の姿が感想を頂きました。

また展示物には10の姿の項目にプラスして、子どもたち撮影するようにします。すると職員も意識的に「道徳性・規範意識の芽生え」について考えるようになると言うのです。

また、別の先生からは、「子ども一人ひとりに合った関わり方や、声掛けが出来ているのかなど、意識しようと思いました。」と、年齢や月齢が同じでも、一人ひとりの発達段階を5領域から見る大切さを感じられていました。

この「研修」というもののが、園の先生方が日々から子ども一人一人の発達過程を踏まえて、どのようにして関わっています。しかし、今回のように「園の先生方が必要なタイミングなどを伝え、それを私たちが園様に直接お伺いし、活用方法や大事なポイントなどをお伝えし、それをやりつてもらう」という流れでした。しかし、今回のように「園の先生方が必要なタイミングで、ご自分たちの手で研修を行えるよう、その環境を用意する」という関わりに変えてみると、その後の先生方からの反応も変わり、今まで以上に主体的なお声をいただけるようになりました。

園の先生方が日々から子ども一人一人の発達過程を踏まえて、子どもが主体となるよう、子どもが主体となれるよう保育環境を整える工夫をされているように、私たちも先生方が主体となり園の文化として根付いていくような「環境を通して行う関わり」をこれからも大事にしていきたいと思います。

ワークショップ① チェックをしてみよう!

- グループで話し合って、相談しながら5領域の発達チェックを付けてください。
- 時間: 10分間
時間が近くなったらお声掛けします。

*対象の子どものひとつ前の発達区分を参考にチェックを確認してください。

例) 3歳児…M0後半から

ワークショップ④ コメント欄に記入してみよう!

- これまでのワークショップ①②③を踏まえて、その子一人ひとりにあった課題・配慮をコメント欄に記入してみてください。
- 時間: 10分間
時間が近くなったらお声掛けします。

とある園の、コメント欄の事例

コメント(未記入)

【課題】M0体を動かす遊び(寝返り、はいはい、お座り、低い歩き、立つ、歩くなどそれそれの行動を個別に見ていく)【配慮】たまごの絵柄に迷子を置いてたり、絵画のあるものを配置し、乗り越えて遊べるように環境を整えていく。玩具にまづかないように教わらかわさぎないようにする。【評価】遊びに入る玩具有出たり。手を握って能本を取るが見られた。また、バーティションとの間のドアを出る時、少しの段差でも簡単に歩き歩行も少ししゃしゃりしてきたが、

環境を整えると、その中で人が自然と育っていくことを感じます。

4. 道徳性・規範意識の芽生え(7月)

友達とさまざまな体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返った時に共感したり、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、を調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる



「道徳性・規範意識の芽生え」のワンシーン。

卒園までに育てたい10の姿の取り組み

竹取新聞

株式会社 カグヤ
東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
2号館10階

第114版

理念と実践で 絆を結びます



園の理念のように、園内研修も環境創りが行われています。

研修の環境作り②

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一主義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てばと始めました。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようよろしくお願いいたします。

環境を通して行う関わり

カグヤクループブログも毎日元気に配信中!

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで
f 神家総本家 聽福庵



CAGUYA COMPANY NEWS

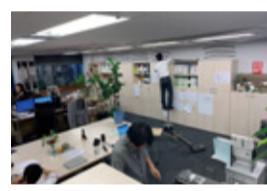
カグヤニュース

昨年末には、毎年恒例のイベントである社内の大掃除を行いました！ ついつい自宅の大掃除にばかり気持ちが向いてしまいがちですが、自宅と同じくらいの時間を過ごす会社も、皆で苦楽を共有する大切な場です。日々掃除はしているつもりでも、やはり普段着手できない棚の上などは一年分の汚れに驚かされます。

汚れを取るという目的はもちろん、一人ではなく皆で一齊に取り組む大掃除は、声を掛け合って周りに自然と気配りがでたり、いつも以上に仲の良さがうまれていくことに気付

新年を迎えるために

その年の汚れはその年のうちに。 気になつたことは後回しにせず、新しい年を迎えるための準備として、身も心も清める大切な機会となつた大掃除



棚の上などの高い場所は男性陣、手の届く細かな所は女性陣と、自然と役割分担も。



今年も様々な内容を配信していきます。よろしくお願い致します。

カグヤでは、クルー同士別々の場所においても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「カグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部を抜粋して、日々の実践をご紹介いたします。

新年を迎えるために

昨日は、子ども達が実際に収穫して2日がかりでつかったという手間暇のかかった貴重なお菓子。柚の収穫も、お菓子作りを指導してくれたのも地域の知り合いの方といふことで、「地域の見守りに感謝し、その真心や繋がりを子どもたちへ伝承していくことで、日本古来の心を持っていく健やかな子どもを育てます」という大切な園の理念が伝わってくるよ

先日、ある保育園に訪問した際に「柚子のお菓子」を頂きました。こちらは、子ども達が実際に収穫して2日がかりでつかったという手間暇のかかった貴重なお菓子。柚の収穫も、お菓子作りを指導してくれたのも地域の知り合いの方といふことで、「地域の見守りに感謝し、その真心や繋がりを子どもたちへ伝承していくことで、日本古来の心を持っていく健やかな子どもを育てます」という大切な園の理念が伝わってくるよ

そう考えると、目には見えなくとも自分では気付かなくとも、色々なところで繋がっていたりするものですから、改めて一つひとつ出逢いや体験を大事にしたいと感じました。 今日は、福岡にある古民家「聴福庵」で調理することに。そのため、火は電気やガスではなく、炭火をつかって挑戦しました。



今回は、福岡にある古民家「聴福庵」で調理することに。そのため、火は電気やガスではなく、炭火をつかって挑戦しました!!

繋がっている



子ども達のためにも、旬の食事を大事にしていきたいです！

うでもありました。

そして、私たちも柚とレシピを頂いたので早速つくつてみたところ、初めてでしたが美味しくできたため、翌日訪問する幼稚園へのお土産としてお持ちすることに…。ちょうど自然や暮らしを大事にされている幼稚園ということも重なり、園の畑にあらゆる柚子も実っていたからか「自分達でもつくつてみよう！」と仰られ、こんな力タチで園と園が繋がるものもおもしろいものだと感じました。

学問の根っこ

一期一会庵

昨年末に、木臼と杵でついた鏡餅の鏡開きを行い社内のみんなでそのお餅をいただきました。この鏡開きはお正月の間ずっと家に滞在していくださっていた歳神様の依り代だったが、そこで「歳神様の依り代だった鏡餅をみんなで食べることでその力を授けてもらい一年間の無病息災を祈念した行事です。

一昨年は、鏡餅の中に大量のカビが発生しほどんと食べることができなかつたため今年は行事に取り組むときからむかしの智慧を調べ色々と工夫しました。

例えば御餅に焼酎を塗りこんだり、粒炭を御餅と御餅の隙間に入れたり、ワサビを御餅の近くに置いたり、温度が高くならないようにしたりと様々に工夫したおかげで今年は一切カビも発生せずいい具合に乾燥も進み綺麗なままの鏡餅で鏡開きを行うことができました。

現在巷で販売されている鏡餅はみんな機械化され、包装も真空パックにしたり食べ物でないプラスチックにしたりして「便利でカビなくて安心です」と販売されています。しか

現代はインターネットが進んで、情報が簡単に入手できるようになつて知識は増えましたが、反比例してIQは下がつてきているといいます。これは知識ばかりが増え、自然風土で培われてきた「智慧」が失われてきていることを強く感じます。

幼い頃から「智慧」に触れることで、人間は道理に触れいのちの存在を感じて自らの生きる力を育むことになるように私は思います。だからこそ先祖伝來の日本の暮らしは、とても大切な日本人の学問の根っこなのです。

カグヤは今年も働き方と生き方に一致を目指し、暮らしの誕生を実践しながら子どもたちに大切な生きる力を伝承していきたいと思います。

し古来のように歳神様が宿るものだからと心を寄せてお祀りしていくことが私たちの正月の過ごし方、また一年の積み重ね方を決めているように私は思うのです。

そう考えるとむかしの人たちの遺してくださった「暮らし」生きていいく智慧は、文明が進化した今の時代でもとても人生に役に立つものばかりです。日本の暮らしを丁寧に今までの世代の私たちが実践していくことは、智慧を継承し子孫へ譲り渡すことにつながります。